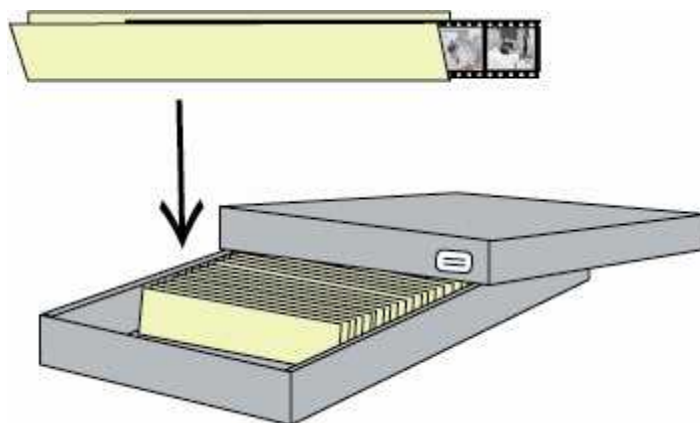


TAC ベース・フィルムの保存方法/一例

株式会社コスモスインターナショナル

現在生産されている一般の写真フィルムの支持体は、大雑把に言って4x5以上のシート・フィルムはPET、ブローニ以下のロール・フィルムはTACである。シート・フィルムはフィルム・メーカーごと銘柄別に暫時TACから切り替えられてきたので、過去の大部分はTACである。ということは写真フィルムもマイクロ・フィルムと同じ問題を抱えている。それなのにヴィネガー・シンドロームが顕在化していない。

支持体は1950年代にNCからTACに代わって半世紀以上、フィルムの劣化は原因の足し算の結果で始まり、引き算はない。とすれば写真フィルムにもいつか大きな問題が起こる可能性がある。ヴィネガー・シンドロームの原因の一つが不適切な温湿度環境にあることは言うまでもないが、保存空間が密閉か開放かの差も大きい。比較して写真フィルムの方は長年、開放形で保存されていたことが救いになっていると判断できる。従って、すぐマイクロ・フィルムと同じようになるということではないと思うが・・・。



貴重なフィルムで臭いが気になり始めたら、AD ストリップでチェック後まず温湿度管理、それが出来なければ今までの保存形態を開放形に変える事を考えてはどうか。弊社では、アルカリを含まないノンバッファ紙でV字型フォルダーを作製、フィルムを落とし込んで、中性紙保存箱に立てての収納を提案している。酢酸に有効なガス吸着シートを箱内部に貼ることでさらに効果をあげることが出来る。

保存と活用の考え方は写真においても「貴重さ」「劣化の度合い」「活用頻度」の重なり合った部分を優先するという事に変わりはない。